

「泉のほとりのシカとライオン（本当に大切なモノは）」

2月になりました。季節は（暦の上では）春になりました。先週の金曜日2月3日が節分でしたね。豆まきをした人もいますか。節分を越えると春になります。でもまだまだ寒いですね。健康に気をつけて過ごして下さい。

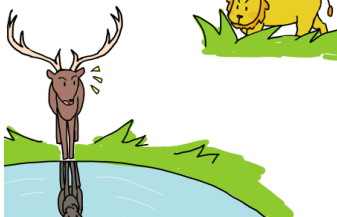
さて、今日の校長先生のお話は、この動物のお話です。
何ですか？

はい、「シカ」ですね。見たことありますか？

シカの角は、木の枝みたいに枝分かれていますね。枝分かれが多い角が「立派な角」なんだそうです。角は雄のシカにしかありません。シカの世界では、立派な角を持った雄がかっこいいとされていて、シカ同士の中でも人気があるそうです。



では、シカのお話をしましょう。イソップ物語のお話です。「泉のほとりのシカとライオン」というお話です。知っている人もいるかな。



喉の渇いたシカが、泉のほとりへやってきました。

水を飲んだ後、ふと見ると、自分の影が水にうつっています。

大きくて、いくつもの枝に分かれた角は、我ながらうっとりするほど立派です。シカは、すっかり得意になりました。

ところが足を見ると、ヒョロヒョロして頼りない感じなので、がっかりしてしまいました。

「せっかく、これほど立派な角を持っているのに、この足ではなさけない」

シカが水にうつった自分の姿をながめて考え込んでいるところへ、突然ライオンが現れました。シカは、急いで逃げました。

ライオンは追いかけてきましたが、シカは足の速い動物ですから、いくら強いライオンでも追いつけません。それどころか、シカはずんずんとライオンを引き離してしまいました。

野原が続いている間は、シカはライオンのずっと先を逃げて行く事が出来ました。

そのうちに、シカは森にさしかかりました。

すると、大きな角が木の枝に引っかかって、うまく走れなくなりました。

そうして、ぐずぐずしているうちに、ライオンに追いつかれて捕まってしまうました。

ライオンに捕まってしまったシカは、心の中でこう言いました。

「なさけない事だ。わたしに憎まれていた足がわたしを助けてくれたのに、わたしが自慢していた角の為にこうしてつかまるとは」

このイソップ物語の終わりに、

「このシカと同じように危ない目にあった時、普段はあまり信用していなかった友だちがわたしたちを助けてくれ、反対にいつも信じていた友だちがわたしたちを見捨てる事があるものです。」と結ばれています。

みなさんはどうですか？「いやだなあ。」思っていた友達に、自分が助けられたことはありませんか。友達だけではありません。こんなモノはダメだと思っていたモノが、自分の為になったり、良いモノだと思っていたことが自分をダメにしているということはありませんか。例えば、歩くより車に乗る方が早く着くし、楽でいいと思って、どこに行くのにもいつもいつも車に乗っていたら、実は健康に良くなかったりしますね。

校長先生はみなさんに、本当に自分にとって大切なものは何か、もう一度考えて欲しいと思っています。